

## 各主体による取り組みの前提となる条件整備

### 情報の収集・蓄積と提供・公開

景観を検討するため基礎となる情報について蓄積し、地方公共団体、住民等に対して提供・公開していく。

#### 重要文化財に指定された砂防施設リスト

文化財登録された歴史的砂防設備について、文化財に相応しい適切な維持管理、周辺の一体的整備等を実施することにより、豊かな自然環境と地域を守り続けてきた砂防の歴史にふれる自然体験学習・啓発の場として活用



長野県牛伏川

## 技術開発

行政による景観施策の推進や住民等による自主的な取り組みのため必要となる技術を開発、普及させる。

### 環境に配慮した建設資材の開発

富士山では、浮きレール構造でかつ最小回転半径を小さくしてそこに生息する動物や植物の生態系・景観等に及ぼす影響を最小限に抑えた砂防工事用の建設資材輸送方法として軌道方式のHEARTシステムを開発



静岡県大沢



### 自然再生技術の開発

世界最大級の実験水路（延長約 800m）を有する研究施設（平成 10 年完成）



自然共生センター

人工的に干潟を再現した実験施設（平成 6 年完成）



干潟実験施設

